

第5回 金沢競馬検討委員会 会議録（要旨）

日時：平成18年1月26日（木）13：30～

場所：石川県庁11階 1109会議室

1 開会

- あいさつ（石川県競馬事業局長）

2 議題

(1) 金沢競馬検討委員会作業部会設置要領について

- 報告

(2) 「中間的なとりまとめ」に関する協議

- 作業部会案報告（西 副委員長 兼 作業部会長）

- 「1 我が国の競馬制度の概況」～「4 これまでの取り組み」について
委員長：特に意見もなく、賛同を得たものとする。

- 「5 経営改善に向けた今後の取り組み」について

委員：12ページのなお書きで、投資的経費と経常的経費を分離をすると書いてあるが、基金を充当するというのを踏まえての考え方なのか。

14ページの中段に今後は企業会計方式を活用し、ある程度の資本投入を行って収益の増加を図るということだが、この資本投入を何によって行うのか。

また、「さらに検討を必要とする方策」の「駐車場の有料化」についてであるが、横長の表の6ページ14番に「利用率の低い駐車場（借地）の返還についても検討が必要である。」と書いてあるが、中期目標となっている。すぐに対応することができないのか。

事務局：12ページのなお書きの投資的経費というのは、必ずしも基金の充当とは限らず、単年度、黒字にならなくても、若干、修繕的なものができるようなものが予算上確保されればやっていきたいということである。

ただ、複数年使えるものを、全て単年度の経費で賄うと、その年度の経費負担が大きくなるということで、それらを複数年に分散させる。

ここ6～7年、赤字が続いているが、全く運営的な経費だけの赤字なのか、あるいは若干、施設的な整備も入ったうえでの赤字なのか、そういったことが少し見えるようにしてはどうかという趣旨で

ある。

14ページの中程の企業会計方式の部分についても同様である。

駐車場の有料化の「利用率の低い駐車場（借地）の返還」については、地元町会から2箇所、駐車場を借りており、以前、車が農道まであふれかえる時には、そちらの方も一杯という状況であったが、入場門から若干離れていることもあって、現在は利用率が少し低い。

これについては、以前、止める所がなかった時に、地元が無理をお願いしながら借りてきたという経緯もあって、地元との折衝、調整もあることから、中期としている。

委員： 例えば、借地料を低減するなどの方法はとっているのか。

事務局： 借上料については、元々、借りた時が田であることから、政府の米の買い入れ価格を基本にして借地を積算している。ただ、制度そのものが16年度に変わり、17年度の単価については、直接、地権者と相談し、少し下げてもらっている。

委員： 比較的経費をかけずに増収が期待できるものとして、ネット投票というのがあり、他の地方競馬と共に4月からインターネット投票、ソフトバンクと組んだ形で進められるということだが、昨年10月にスタートしているネットバンクとの違い、アクセス方法や決済方法も含めてどこがどう違うのか。また、大手のIT関連企業と組むことよってのメリットとデメリット、それから携帯電話を使って馬券を買えるようになるのかどうか、そんな方法を考えているのかどうか、その点を聞きたい。

事務局： 現在のD-netというのは、電話とインターネットによる投票ができる。これについては、決済機能が昨年9月までは2つの口座を持たなくてはならなかったが、10月以降は、ネットバンクを利用することによって、1つの口座で即日決済もでき、非常に使い勝手が良くなった。ただ、これまでのインターネット投票の場合、金沢競馬の馬券を買うときは、まず、金沢競馬場のサイトを出してこなければならなかったが、ソフトバンクとの提携ということになれば、ポータルサイトはヤフーで、画面の中で「地方競馬一覧」という感じで入りやすい仕組みになるであろうと思うし、各地方競馬場のサイトもすぐクリックで出てくる、後は馬券の買いやすいシステムに開発していくということになるのではないかと考えている。

委員： リンクが張られ、そこから入る。画面は共通になるということか。

事務局： 最初は、地方競馬というのが出て、そこで各競馬場が一覧的に出る。そこから各地方競馬場へ入っていく、あくまで案の段階であるがそういうことになると思う。

もうひとつ、ソフトバンクと連携した場合のメリット、デメリットについては、使い勝手が更に良くなるだろうし、ヤフーについての顧客も随分と増え、相当の売上げ増が期待できるというのがひとつのメリットである。一方、ソフトバンクにしても使い勝手を良くするために、色々なサービス提供を考えおり、顧客管理システム開発

等の投資には非常に経費がかかると聞いている。新しいD-netを管理運営をする会社と各主催者の利益配分の仕方が、まだ、話が詰まっていないが、会社の取り分が少し高くなるという情報がある。その辺が高くなればデメリットということになると思っている。

委員 基本的事項の5番目に場間場外発売の収支バランスの検証ということで、「現在、場間場外は全て黒字となっているが、さらに有利な相手先との連携に努めること。」とあるが、現在、どこも年間どの位の場間場外を実施しており、この先、どのあたりとやっていきたいのか。

事務局： 場間場外発売には、金沢競馬の馬券を他の地方競馬場で売ってもらうというもの、逆に金沢競馬が開催していない時に他の地方競馬の馬券を金沢で売るという2つの形態がある。今年度の計画では、金沢競馬分を他場で売ってもらうのが39日間、主に火曜日は岩手、月曜日は東海（笠松、名古屋）を主体として売ってもらっている。逆に他場の競馬を金沢で売るという部分については58日間、これも主に提携先は岩手、東海であり、お互いに提携する時には、売った見合いの額でやりとりしており、金沢競馬の方が日数的には多いという形になっている。

委員： これから、南関東や北海道と場間場外をやるということも検討しているか。

事務局： 今年度も北海道や南関東ともやってはいる。先ほどの岩手と東海は、主なものという意味合いで出している。もちろん、南関東だけでなく、九州の方もやりたいとは思っている。

委員： 振興策の1番「場外発売所の設置」について、専用場外、あるいは共同場外、ミニ場外、これは自ら設置する、あるいはNRSが共同場外を設置する、あるいは民間活用等を利用した設置と色々あると思うが、理由の中に書いてあるが、確かに地元の合意形成とか、収益向上ということも検証しなければならないし、あるいは本場への影響も考えながら設置しなければいけないと思うが、良い話があれば、短期、先に取り組むということは可能なのか。

事務局： 場外発売所の形態は幾つかあることは、この前、少し話したが、通常、今までは専用場外発売、例えば金沢競馬場の馬券だけ売るという方式、もう1つは、金沢競馬場だけでなく他の競馬場とも共同して、1つの共同場外発売所を設置する形式がある。従前は、それぞれ主催者が直接投資、管理・運営するという方式であったが、投資に相当の金がかかるため、施設の所有者がある程度の設備投資をし、地方競馬場に発売を持ちかけるという、オーナー方式というものが流れとして出てきている。現在、場外発売所の色々なケースについて整理を加えている。「今は中期になっているが、もし、いけるという話になれば短期でも良いのではないか。」ということについては、まさにそのとおりだと思う。

ただ、前回の委員会でも議論があったように、場外発売所を設置

する時には、まず1つはそれを受け入れてくれる地域の手承がいる。もう1つは、採算性が合わないといけない。その2つが共にクリアされて初めてできるのであろうと思っている。前回、委員の方から「両方、一変に進めようとする」と問題があり、切り離して考えるべきではないか。」とあったように、切り離して考えるのが筋だと思うし、事務的に採算性がどうなのかということを検討している。採算性の中で本場への影響という話が出たが、なかなか数値的に表すのが非常に難しくて苦労しており、資料として取りまとめるのも難しいという感じがしている。

委員長： 今までの所で、色々と補足説明を受けたが、中間報告の記述としては、こういった記述でおおむね認めることとする。

○ 「6 金沢競馬の今後のあり方」について

委員： ちょっと欠けている点があると思う。競馬というのは馬であり、馬のことを何も触れていない。これだけ良い「今後のあり方」といったものを作ったのだから、地域のファンがなじむレース展開というのは何であるかということ、馬との一番関連性のあるきゅう務員や騎手ともう少し腹を割って話をしてもらいたい。馬主にも理解をしてもらった方が良い。そして、18年度の金沢競馬をどうするかということ、ファンに分かるようにしなければいけない。

厳しい競馬法のもとでも、オープンシステムはPRにつながる。入場券の問題もうまく地域にあった運用をしなければいけない。それから勝馬投票券、今は中央競馬に並んで色々あるが、これの十二分な検討は地域に密着した1つの方法ではないかと思う。

馬に関連したことをもう少し充実させて「金沢競馬の馬は強いんだ、面白いんだ」と、そういったことが風評されて、そしてファンが来るようにした方が良い。

事務局： 前回の検討委員会の時に、競馬関係者そして委員の方々からの意見への対応という中で、「在厩馬の安定的な確保」、「スターホースの育成」ということが項目にあった。中身的には賞金・手当の引き上げ、あるいは馬主の所得制限の緩和ということから2つに分けてしまったため、「スターホースの育成」という部分が消えてしまった。今の指摘を受け、馬に関することを少し追加で記述させていただきたい。

委員： 場外発売所については、産業展示館などの施設をもう少し活用して経費のかからないようにすれば、可能性があるのではないか。

委員： 確かに競馬というのは馬であり、非常に肝心なところと思うが、先ほどから場外とか、インターネットの利用とか、いわゆる売得額を上げることについては、当然、今後やっていく有効な手段だと思う。しかし、要は120万人の入場者があったものが、38万人に落ちてきている。あれだけ立派な競馬場がありながら、人が来ないという部分がひとつ大きな問題だと思う。

どうしたら人が来てくれるかということでは、新たなファンの発掘、あるいは競馬そのものの魅力というものを広く県民に理解してもらう、そういったことが必要だと思う。

スターホースやスタージョッキーが出れば、ファンも増えるであろうが、競馬以外の、例えば人気のあるカレー店、ラーメン屋、あるいは高級なフランス料理を出すなどの工夫をする。あるいは金沢、石川県は茶道、華道が非常に盛んなところであるので、例えば茶会、野だてをやるとか、華の展覧会をやっても良いのではないか。そうすれば、これまで競馬というものに全く関心がない、競馬場も知らない、そういった人たちもかなり来るし、そういう魅力のある食べ物があれば、若者たちが競馬を見なくても、競馬場に行けばまいカレーがあると、そういったことも中長期的に考えて行けば金沢競馬場に人が来てくれるのではないか。そういう仕掛けが必要だと思う。

委員： 先日の県議会だったと思うが、今年の収支見込みもたぶん赤字だろうというように記憶しているが、こういった状態がここ数年続いている。さらに今後もこの活用策を色々やって、どの程度改善されるか分からないが、そういうような状況が続いたときに、当面は基金で補填をするという方法は多分あると思うが、将来、基金が底をついたときに、こういう収益事業に税金を投入することが県民の理解を得られるのかどうか。

今後のあり方の論点のところでも「地方財政の寄与」という終局の目的がここに書いてあるが、基金もなくなって、税金を投入しなければならないというようなことになったときに競馬事業をどうするのか、大変基本的な問題だと思うので、論点のひとつとして、我々が検討したときにそういうことも触れたということころを入れておかないといけないのではないか。

委員： 今の意見は、もっともだと思うが、私は存続派というか、北陸に1つしかない競馬場で、何とか頑張って欲しいという気持ちで参加している。

他県では、振興策何ひとつ出さないうちに速やかに廃止という報告書を提出しているところもある。

石川県の場合はやり方によっては何とか頑張れるのではないかと、この地方財政の寄与というのは、確かにこの時代は終わった。県や市がやる競馬の時代は終わったと思う。だからこそ今、国や地全協だとか、地方共同法人で何とかならないかと模索しながら検討していると思う。

現実には、他県でも止めざるを得ないところまで来ていて、止められない状況となっている。それはなぜかと言えば、過去に、石川県もあったが、何百億という地元に還元してきたという、それと雇用問題とか色々ある。だから何とか頑張ろうというのがこの委員会の中の声だと思う。

速やかにやれるものをまずやって、お金をかけないで、とにかくこれ以上赤字を出さないで、単年度黒字を目指して何とか頑張るにはどうしたら良いかということをお急ぎに考えて欲しいということと、先ほどあったように魅力あるレースの提供ということで、ファンが来てくれれば多少なりとも売上げが伸びていく、そのためにファンサービスだとか、充実した番組の提供を合わせてやらなければいけないということである。

地元のマスコミの協力を得たりとか、県が主導して、県民の地元密着の競馬場をどうしたら良いかというのを考えたら良いのかと思う。そこで駄目なら駄目でやむを得ないと思うが、1、2年頑張っただけで欲しいというのが気持ちである。

素晴らしい振興策、経営改善策が出てきたので、お急ぎにやれるものは、新年度の4月からやってほしいと思う。そういう順番を最終的にまとめたら良いのではないかと思います。

事務局： 「中間的なとりまとめ」については、主に新たな振興策や経営改善策、どちらかという金沢競馬を活性化し、健全化をしていくという部分を中心として進めてきたわけであるが、今ほどの話のように、来年度取り組めるものについては、すぐにでも対応したいと思っている。最終的なとりまとめの時には、どうしても今後のあり方という部分に踏み込んでくるというふうな受け止めており、その話し合いの核となる部分が論点というふうな理解している。その中でもうひとつ足りないのではないかとということで、先ほど発言があったわけだが、次回にはその趣旨の部分を入れ、提案したいと思う。その辺は、また作業部会の委員とも相談していきたい。

委員： 番組によって1年間の競馬が成り立っていく。職員が心をひとつにしてやれば競馬はうまくやることができる。そういった面で、この改善策を推し進めて行くときには、「みんなでやろう」というモードが出てくれば、必然的にPRとなっていくわけであり、それが一番大事である。そういったものが外部から見てもちょっと乏しいという感じがする。難しいこととか、金をかけなくてはならないというものではなく、みんなの気持ちがあれば、金沢競馬は前の方へ前進することは必至である。

事務局： 来年度も競馬事業局の職員は当然のことながら、関係者一丸となって熱意を持って取り組んでいきたい。

委員長： 各委員からの提案は、振興策や経営改善策がたくさん出ており、すぐやれることもたくさんあるので、これは全力投球で当面やるということだと思う。それと、論点の1つに先ほど言っていたことも加えておくという理解でよろしいか。

事務局： 論点、現在4本立っているが、次回の委員会には、作業部会でも相談し、もう1つの柱立てをさせていただきたいと思っている。

試行・短期で、取り組みをすべき事項ということで整理されている部分については、多くの項目にわたっており、全部来年やるとい

うことはなかなか難しいが、出来るものについては、18年度の初めから対応できるように、場合によっては現在、編成中の予算の中にも盛り込みをするという形で対応させていただきたいと思っている。

委員長： 今日の提案を受けて、もう1回、作業部会で検討いただいたうえで、この委員会で中間報告を最終的に皆さんにお決めいただくという手順にさせていただければと思う。

委員： 規制は現状のままでいいが、金沢競馬におけるオープンシステムというような、ムードをまず作ってもらいたい。そうするとファンが入りやすいと思う。ゲートがあるどうしても人間が入らない。入場料がどうかこうとかということは差し置いて、ファンが自由に入れるように、入ったら何かを売るというようなひとつのムードを作ってもらいたい。先ほども色々議論が出ていたが、農畜産物の販売所や飲食関係をもう少し現状のままでもピックアップする方法があるのではないか。

競馬の関係者と親密になったら、公正を害するというようなムードが未だにあると思うが、厳正の中にも競馬関係者とコミュニケーションをよくとっていかなければならない。それが一番大事だと思うし、今一番欠けているのではないかと思う。

委員長： その他、注意する点が特にないようなので、色々注意いただいたことや、ここに記載してある記述については、おおよそ認めていただいたこととする。

論点については、次回までに検討してもらうことになるが、次回は本日の意見を踏まえて修正した案を出していただけるということで、それで中間的なとりまとめの最終的な協議をしたい。

(3) 次回検討委員会の日程等について

- 第6回金沢競馬検討委員会スケジュール（案）の承認
- 第6回金沢競馬検討委員会の開催日の決定
 - ・ 平成18年3月29日（水）午後
- 第6回金沢競馬検討委員会の公開の決定

3 閉会